

学年通信

岡山採山高等学校3年次
生徒の皆さんへ
そして保護者の皆様へ
2010.6.3.

【第1回学力テスト成績表の送付について】

標記の成績表と度数分布(別紙)を送付します。確認してください。3年生になると「テスト」が増えます。そのため、過去には、学力テストを軽視する気分になる生徒も見受けられました。しかし、学力テストは「基本のキ」です。学力テストの得点率がセンター試験の得点率だと考えるといいでしょう。テスト返却後に見直しが必要なのは、もちろんです。

【最後の保護者説明会 御出席有り難うございました】

P T A総会後の保護者説明会に183名の方の御出席を頂きました。進路指導係から入試の仕組みについてお話しした後、全般的な指導方針について岡田がお話しして、全体で50分程度の会でした。

御欠席の皆様には、「入試のしくみについて」はお子さんを通じてプリントをお渡ししてあります。御確認ください。

また、私の話の要点は次の通りでした。

0 進路実現とは自立の実現。

- 1 進路が決定するまでを見通した計画が大切。基本はあくまで「高校生として最後まで勉学に励むこと」。その基本を崩してしまうような受験計画はない。
- 2 進路実現には「覚悟」が大切。
- 3 受験計画は「最後まで貫徹」すること。進路が決定するまでは「高校生」。
- 4 大切なのは肉体と精神の健康。
- 5 情報があふれているが、最も確実な情報は、「自分は何をしたいか」ということ。そして、今の時点で何ができて、何ができないか、ということ。できる部分を評価しつつ、できないところをつぶしていく中で、徐々に覚悟を決めていく。それが大切。

【球技大会】

3年生になると「最後の・・・」が増えますが、球技大会もこれが最後ということで、生徒の皆さんの気合いは、並々ならぬものがありました。

準備にあまりに力を入れすぎて当日バテ気味のクラスもありましたが・・・。

縦割りブロック対抗なので、あまり単純なことは言えません。ただ各クラスともに、同級生・下級生と楽しくコミュニケーションを取りながらの球技大会で、たくさんの笑顔に会えて幸せな一日でした。

【6月・7月前半の予定】

6月12日(土)・13日(日) 進研マーク模試

15日(火)・16日(水) 第2回模擬テスト

19日(土) 土曜活用講座(希望者)

23日(水) 中高授業公開(本校保護者対象)

26日(土) 中高授業公開(外部の方が対象)・・・28日(月)が振替休業日

27日(日)・28日(月) 代ゼミ東大実践模試(希望者)

7月 7日(水)～13日(火) 第2回学力テスト

14日(水) 保護者面談中心日

15日(木)～16日(金)4限まで 平常授業。16日午後到大掃除・終業式

【シゴト(仕事)について】

シゴト(仕事)について書く。シゴトと言っても狭い意味の「仕事=職業」ではない。人が生活をするためのこと、「すること=シゴト」である。

私が小学校1年生のころのシゴトの一つは、「紙取り」であった。家が新聞販売店だったからだ。40年も前。今ほど折り込み広告がなかった時代である。それでも、週末にはいくつかのお店の広告が家に持ち込まれた。その広告を1枚ずつ取って、セットにする。それが「紙取り」だ。

別に難しいシゴトではない。1枚ずつ取ればいいのだ。ただし、正確さと根気こんきが要求される。ある店の広告だけを取り忘れてはいけない。逆に、同じ広告を2枚取ってもいけない。最後に数が合わなくなる。「1枚でもお金じゃけえな」。紙取りをする姉と私の肩越しに聞こえた父の声が懐かしい。

ところで、私たちの世代は、五右衛門風呂に入った最後の世代だろう。鉄釜の風呂を、下から薪を焚いて沸かすのだ。薪割りをするために、初めてマサカリを使ったのは、中学1年生の時。片手で使える手斧ではない。金太郎さんがかつぐ、柄が長く重いマサカリだ。

両手を上手にを使って、マサカリの重さを利用して振り下ろせばよい。そうすれば簡単に割れる。コツを掴めば傍目で見ると危険ではない。しかも、ちょっと男っぽい仕事なので好きだった。しかし、問題はその後だ。

薪割りは2ヵ月に一度ほどのこと。半分に割った薪を、保存のために積み重ねないといけない。薪の長さは大体切り揃えてある。しかし形は不揃いだ。それを積むのは意外と難しい。10段ほど積み重ねると崩れそうになる。「なにゆうしょうるんなあ。頭は生きとるうちに使うもんじゃ」。父に叱られながら積んだ。薪の1本1本を観察して、形を見ながら慎重に積み重ねる。それでも崩れる。悔しくて、泣きべそをかきながら積み上げた。

* * *

「学生のシゴトは勉強である」という言い方がある。これに納得しない人もいるだろう。しかし、勉強という行為が、大人の「仕事」に通じる面があることは確かだ。

大雑把に言うなら、シゴトには2種類ある。一つは「紙取り」のようなシゴトである。ある意味で単純。単純だからノウハウを伝えることも容易である。きちんと取るためには、指先を湿らせること。そして、優しく紙に触って引き寄せること。ただし、このシゴトはミスしないよう努力することが肝要だ。1枚ずつ取るか、取らぬか。つまり、「紙取り」とは、極めてデジタルなシゴトである。

もう一つは、薪を積むようなシゴト。何がベストか。積んでみないと分からない。解答例は複数ある。しかも、簡単に「これが最善の解答」とは言えない。よって、ノウハウを伝えるのは難しい。私も父に「1本1本の形をよく見ろ」と言われたただけだ。つまり、ある意味でアナログなシゴトである。

これを勉強に当てはめてみよう。とにかく正確を期すことが必要なものがある(計算や書き取り)。その一方で、よくよく考えることが必要なものがある(英作文・要約・証明など、論述する問題)。そして、その2つが混ざったようなものもある。

デジタルに正確を期すシゴトは、ノウハウを教えてもらいやすい。よって、安心できる。簡単な気もする。つい馬鹿にしてしまう人もいるだろう。しかし、ミスをせず完成させるのは、難しい。

思考力や表現力が問われるシゴトは、ノウハウを教えてもらいにくい。よって難しく感じる。何が完璧な正解かも分かりにくい。だから、できるように訓練することも難し

く感じ、敬遠する人もいる。しかし、何が完璧かを分からないまま考え続けることは、意外と楽しい。これが好きな人も多い。

* * *

ところで、私は薪を積むのが結局上手くならなかった。上手に積んだつもりでも、2週間もすれば形が崩れた。逆に得意だったことは、風呂焚きである。今でも、野外炊事となると張り切ってしまう。この違いはどこから来るか。

薪は2ヵ月に1度しか積まない。一方、風呂焚きは毎日のことである。中学・高校の6年間で、30回ほどしかやらなかった薪積み。2千回以上やった風呂焚き。答えは明白である。

若い人に厳しい時代である。就職戦線が大変なことは連日報道されている。でも、どのようなシゴトであろうと、「本当のシゴト」をしようと努める人には、いつか陽が当たる。色々な人を見ていてそう思う。

3年生はテストが多い。テストとは今までのシゴトの成果を発表する場だろう。いいシゴト、できていますか。

【 今月の詩 】

* 鶴岡千代子「雑草のうた」(HP版では省略)